

日時 2009年3月17日 15:00～18:00

場所 フェスハーネ／ホール3

主催 国際航路協会(PIANC)

共催 国土交通省、国際協力機構(JICA)、米国陸軍工兵隊

概要 舟運が、省エネルギーで持続可能な輸送システムの構築と気候変動の緩和にどのように貢献できるのかについて、舟運に関わる各国の研究者や行政関係者が各地における活用状況等について報告を行うとともに、今後の更なる活用に向けた議論を行う。

プログラム [司会進行：PIANC Eric Van den Eede 会長]

(1) 開会挨拶(5分+5分=10分)

PIANC：Eric Van den Eede 会長

国土交通省：中尾成邦 技術総括審議官

(2) 発表(15分×8人=120分)

1) PIANC 環境委員会：Harald Koethe 議長

持続可能な発展に向けた内陸水運の活用

2) ドナウ川委員会(セルビア国立航海公社)：Zaneta Ostojic-Barjaktarevic 課長

持続可能な水路の整備とバルカン半島の和解

3) メコン川委員会(タイ国運輸省)：Thanatip Jantarapakde チーフ

最小限のインフラ整備による持続可能な水路整備における

メコン川委員会の役割

4) コンゴ川委員会：Benjamin Ndala 事務局長

コンゴ川における水運

<休憩 10分>

5) ライン川委員会：Gernot Pauli チーフエンジニア

ライン川委員会の歴史と内陸水運による持続可能な経済発展

6) 米国陸軍工兵隊：Robert A. Pietrowsky 水資源研究所長

舟運を活用したアメリカの貨物輸送システム

7) カルカッタ建設環境センター：Sobhanlal Bonnerjee 事務局長

ガンジス川の活用によるカルカッタの活性化

8) 横浜国立大学：池田龍彦 教授

アジアにおける舟運の役割

(3) 議論(35分)

(4) とりまとめ(10分)

PIANC：Eric Van den Eede 会長

(5) 閉会挨拶(5分)

JICA：岡崎有二 上級審議役